

▶▶▶ 循環型食農システムの構築 ～第一次産業と農山漁村の活性化に向けて～（2年目）

豊かな環境で、にぎやかな、 住み継がれる、地域社会の構築

▶ プロジェクトメンバー

○岸上 光克（経済学部／食農総合研究教育センター）
大浦 由美（観光学部）
荒木 良一（教育学部）
藤田 和史（経済学部）
原 祐二（システム工学部）
佐久間 康富（システム工学部）
山本 祐吾（システム工学部）
似内 映之（産学連携イノベーションセンター）
中尾 彰文（食農総合研究教育センター）

○はプロジェクト代表

▶ 共創相手

和歌山県
(株)秋津野
東京大学
その他、参画機関等

プロジェクトの背景

地域の持続的な発展のためには、ネットゼロカーボンへの取り組みが、環境・生態系、食料生産、雇用、伝統・文化の発展など地域の豊かさに繋がるビヨンド・“ゼロカーボン”を目指す必要がある。この実現には、最新の科学・技術的アプローチを活用した地域固有の条件に応じた最適なシステムの設計、さらに地域知（特長や情理）を有する地域の人々、最先端の知を有する研究者、技術と実行力を有する技術者・企業間の連携、つまり、産・学・公の共創が極めて重要である。

技・知・人が有機的かつ高度に産学公の間で循環し合えるCo-JUNKANプラットフォームを開発・実装する。ここでは、多種の技術や知に関するデータへアクセスできる情報基盤RE-CODEを実装し、異なる世代や立場の多様な人々が互いに学びあうCo-learningの場において活用していくことで、将来の社会を先制的に描き実現していくことを可能とする。

(<https://ifi.u-tokyo.ac.jp/units/co-junkan/> より抜粋、詳細は参照)

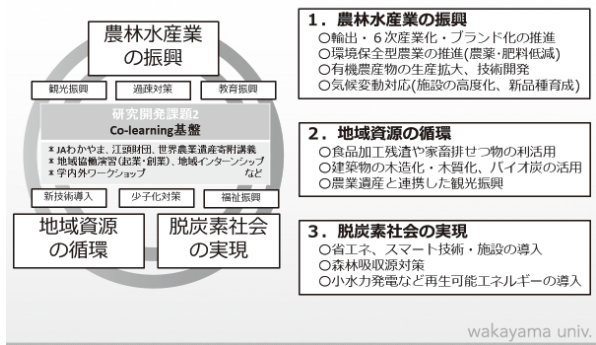
プロジェクトの目的

本プロジェクトは共創の場形成支援プログラム（国

立研究開発法人科学技術振興機構）「ビヨンド・“ゼロカーボン”を目指す”Co-JUNKAN”プラットフォーム研究拠点」（研究代表：東京大学未来ビジョンセンター）の一環として実施している（<https://coinext.ifi.u-tokyo.ac.jp/index.html>を参照）。和歌山サテライト（以下、サテライト）においては、「豊かな環境で、にぎやかな、住み継がれる、地域社会の構築」を基本方針として、学部横断型で様々な取り組みを行っている。

和歌山サテライトの取組方針イメージ

ビジョン： 豊かな環境で、にぎやかな、住み継がれる、地域社会の構築



プロジェクトの活動内容

特に、Co-learningの実践・実証、交通・エネルギー

一、農林業GX、エネルギー需給構造など、ビヨンド・“ゼロカーボン”に不可欠な技術システムの開発・地域実証等を、参加自治体や企業、大学等の参画機関との連携のもと、実施している。

令和5年度においては、下記の取り組みを行った。

1. みらいワークショップの実施

紀北農芸高校（2年生全員、約50人）を対象として、「持続可能なわかやま農業の実現～地域資源を活用した循環型の農業を考える～」未来ワークショップを実施した。1日目は、「東大 coi-next の取組、みらいWSの目的」（芝浦工業大学 栗島氏）、「県内農業の現状や施策」（和歌山県庁：森氏）、「和歌山県における取組、今後のWSの予定」（和歌山大学：岸上氏）という3講義を実施し、今回の趣旨を共有した。2日目は、早和果樹園（有田市）と秋津野ガルテン（田辺市）を視察し、県内における農山漁村発イノベーションの最先端を学んだ。3日目は、以上の座学と視察を通じて、今後の持続可能な循環型の農業や農村のあり方について、大学生がファシリテーターとして参加し、ワークショップを行った（写真1 和歌山大学でのWS発表時の様子）。高校生からは積極的な意見が多くだされた。

また、千葉大学と和歌山大学が中心となって、未来ワークショップファシリテーター養成講座を対面とオンラインのハイブリッドで開催した（写真2 養成講座の様子）。



写真1

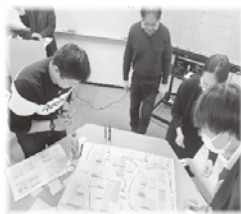


写真2

2. 和歌山におけるプロジェクトの推進

サテライトのプロジェクトとして、循環型地域づくり（小水力発電や食品残渣の利活用の検討など）に関するフィールドワーク（農林水産省「農村型地域運営組織（農村RMO）モデル形成支援事業」活用）を実施しました（写真3：小水力発電フィールドワークの様子）。また、果樹剪定枝（梅）でバイオ炭の生成試験や施設園芸での炭酸ガス施用による環境効率の向上について関係者と意見交換を実施した（写真4：バイオ炭生成試験の風景）。その他、地域と共創した各種プロジ

ェクトを進めている。



写真3



写真4

3. その他

サテライトの取組以外にも、岩手サテライトで実施された「サイトビジット（プログラムマネジメントチームが、プロジェクトが実際に研究開発を実施している現場を訪問し、プロジェクトと一体になって研究開発に関する意見交換を行うこと）」に参加し、岩手県内の取組を視察するとともに、今後の進め方について意見交換を行った。

また、県内の食品残渣の実態を把握するため、和歌山ノーキョー食品工業などを視察し、次年度以降のみかんジュースの残渣の有効活用について検討を進めている。

プロジェクトの成果

以上の取り組みのほか、全体会議への参加等で関係機関との情報共有を図るとともに、各種論文などで成果を公表しており、次年度以降も様々な研究教育活動に展開していく。また、次年度のサイトビジットは和歌山県で開催されることが決定しており、事業の取組報告とともに、フィールドワークを通じた和歌山の魅力発信にも取り組む。

これらの取組について、本センターのアドバイザーボード会議において報告し、意見聴取を行っていく。

本プロジェクトは、JST 共創の場形成支援プログラム【JPMJPF2003】の支援を受けている。

プロジェクトに関するお問い合わせ

食農総合研究教育センター

E-mail : syokuno@ml.wakayama-u.ac.jp

URL : <https://www.wakayama-u.ac.jp/food-agri/>

